

令和7年度第3回 医療・介護連携専門部会 議事概要

【日時】 令和8年2月19日（木）18:30～20:30

【場所】 出雲保健所 大会議室

【出席者】 各病院長、出雲医師会、介護保険サービス事業者連絡会、介護支援専門員協会、訪問看護ステーション、保険者協議会、出雲市消防本部、出雲市等（委員：20名）

※ 他、オブザーバー参加5名、傍聴1名

【議事内容】

1. 議題

- (1) 医療・介護連携専門部会の検討状況について
- (2) 圏域における医療と介護の状況、医療機能分担について
 - ① 圏域における医療体制について
 - ② 各病院の地域医療構想にかかる対応方針について（資料非公表）
 - ③ 一次医療（外来医療）の維持・確保について（資料非公表）
 - ④ 医療と介護の連携について
- (3) 令和8年度紹介受診重点医療機関について
- (4) 次期地域医療構想について

【 主な意見・協議結果 】

1. 医療・介護連携専門部会の検討状況について
2. 圏域における医療と介護の状況、医療機能分担について
3. 令和8年度紹介受診重点医療機関について
4. 次期地域医療構想について

<意見>

■ 圏域における医療体制

- ・ 医師以外の医療人材の把握が必要。今後は限られた人員でどこまでやっていくかという論点。
- ・ 在宅医療との連携、高齢者施設の協力医療機関としての連携加算に沿った対応。
- ・ 2025年問題から2040年問題、さらに高齢化が進み医療介護への期待度が高くなるため、急性期も必要だが、高齢者の受け皿になるような施設や病院との協力体制が必要。
- ・ 2040年に向けて攻めの予防医療、Wellビーイングが重要。

■ 一次医療体制の維持について

- ・ 診療所が少ない地区は開業も難しいためオンライン診療の活用も重要。
- ・ 地域医療は医師の志だけでなく、インセンティブや医療職全体での役割分担等構造

的な検討が必要。

- ・ 今年度外来医師不足地区4地区で意見交換会を開催したが、今後は出雲圏域全体で考えて行く必要あり。診療所医師は産業医や学校医、予防接種など一般診療以外の公衆衛生を担っており、マンパワー不足が大きい。

■ 医療と介護の連携について

- ・ 救急搬送件数は増加し、ほぼ高齢者の傾向。増加する救急需要に対応する必要あり。
- ・ 三次救急医療機関は重症患者を優先するが、入院期間が長期化しないような前方・後方支援が重要。
- ・ 夜間は多職種で検査等可能な三次救急医療機関で一旦対応し、以後後方支援病院で受け入れる流れが円滑に出来ると効率的。
- ・ 包括的な入院医療を提供するため、365日リハなどに入院時から取組、次の段階へ早期に移行できるような工夫。救急搬送の高齢者等で医療的には入院不要でも、家族の同意が得られない場合などもあり、家族と医療側の双方の思いの調整が難しい。
- ・ 在宅での看取り件数が減っている印象は現場でもあり。高齢者のみ世帯で全員介護保険認定者という家庭も増え、在宅医療のニーズは高いが最後まで在宅が難しい。看取りなどにつながっていない現実を分析していく必要性あり。